

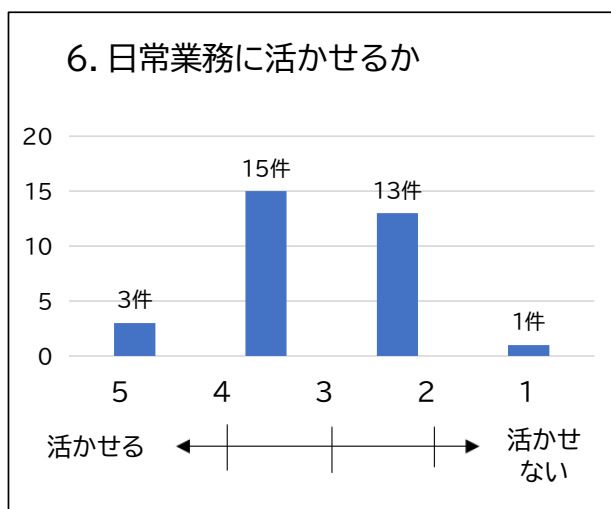
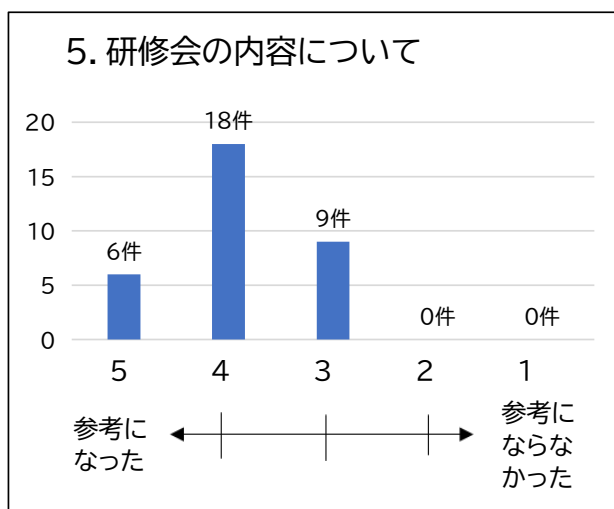
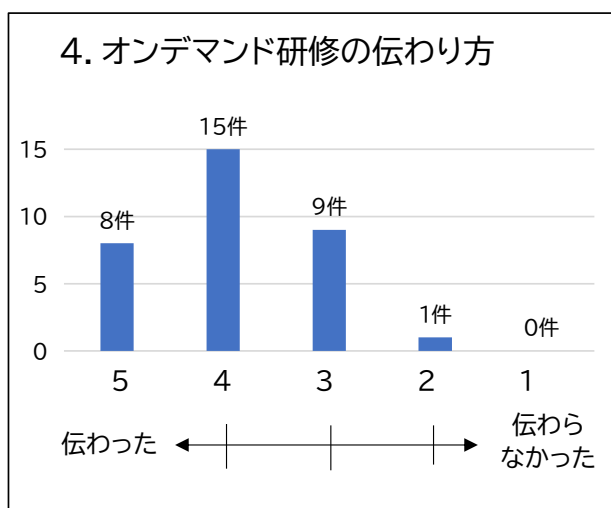
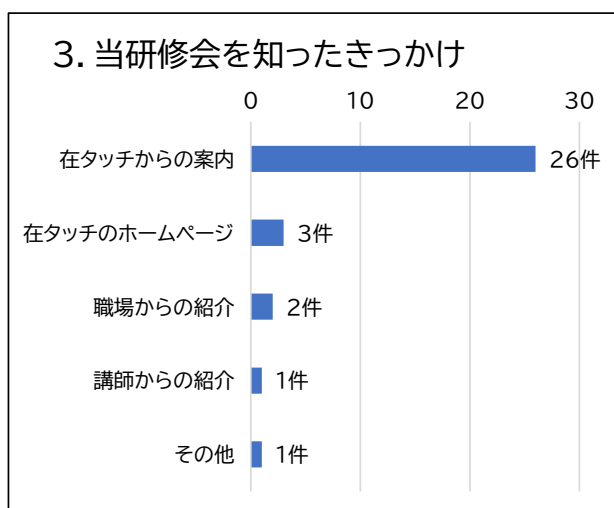
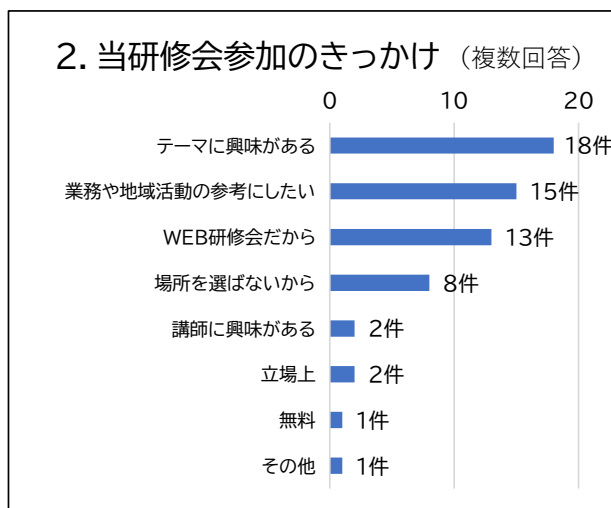
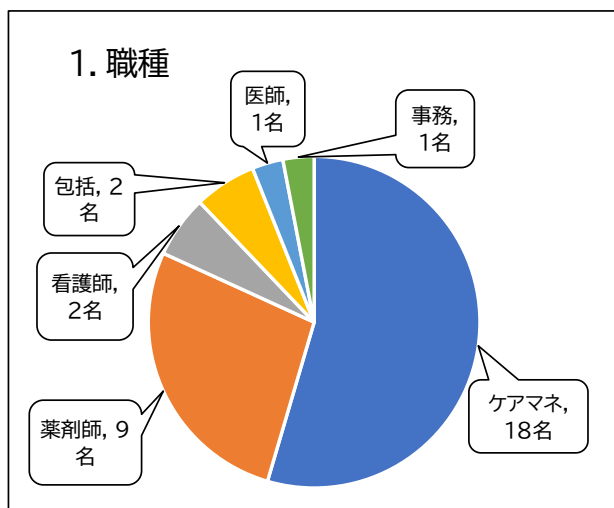
第25回 多職種連携 医療・福祉セミナー

「我が事、丸ごと。共に生き、共に支えあう福島市を目指して」

視聴期間：令和5年8月3日～8月13日

再生回数：141回（回線数：88件）

アンケート回答者：33名



7. 感想など自由記載(アンケートより一部掲載)

- ・ とても重要な事業と思います。ただ、もっともっと周知していく必要を実感しました。特に若い世代は助けを借りれること自体に気づいていない可能性が高いと思います。まずは医療機関や学校機関でこのような部署や事業があることをしっかり認識していけるようになるとうよいと思います。
- ・ 「包括的支援体制整備事業」「重層的支援体制整備事業」と、長く堅苦しい名称には、正式名称のほかに、親しみやすい名称でプロジェクトを示しても良いのではないかと思います。共生社会の姿として、さまざまな障がいや困難を抱えていても、大きな施設だけでなく、近い所に家族的な小さな単位で居場所があり、地域の一人として当たり前のように地域社会との交流も図れる体制が、どこの地域でも整うといいなと思った。また、どんな支援があり、窓口はどこか等の周知やアウトリーチの仕方に難しさがありそうだが、大切なことだと思った。
- ・ 地域の中にある課題に対応されている包括的支援体制整備事業について知ることができた。共生社会推進課に従事されている方の苦勞を感じることができました。また、支援が必要な方へ相談にのってもらえる窓口があることを知ってもらうだけでも安心して繋がるのかなと思いました。
- ・ ひきこもり支援はとても素晴らしいこととは思いますが、背景には発達障害などが隠れていることも多いと思います。かなり長期的に伴走をしなければいけないでしょうし、とても難しいことだと思いました。
- ・ ひきこもりなどの相談を受けた場合どこに相談すればいいかわかったことです。
- ・ 共生社会推進課の具体的な取り組みを取り上げて頂きとても良かったです。私自身、直接的な関わりがなかったため、漠然としたイメージだったが、今回研修を受けることで相談しやすい体制になっているということが分かりました。ありがとうございました。
- ・ 縦割りの役割であったものが必要性を把握して各課へ支援体制を整理していただけることでの安心感を感じた。ケアマネジャーとして問題性を感じても本人・家族がそのように捉えていないことにそのような支援が必要か考えさせられることがある。勉強になった。
- ・ ひきこもりの子供を抱えて生活をしている高齢者が多くなってきているためどこにどのように繋げて相談すればいいかわかり良かった。利用者たちもあきらめているところがあるため少しずつ相談をしながら解決できるようにしていきたいと思った。
- ・ ひきこもりとなっている方との関係構築までに時間もかかりますし、本人の同意を得られるまで大変だと思いました。包括支援センターの伴走支援について、包括によって、認識の違い、支援の差を感じます。
- ・ 複雑化した問題に対し必要な関係機関へ周知して多機関の関わりを持てるようになることで一丸となって考えていくことができ解決の一步を踏み出せるようになって感じました。問題を問題としてとらえていない当事者に対しても丁寧にかかわることにより信頼関係を気づき問題と向き合っていくことができるのだと感じました。
- ・ 孤立しない社会を目指すこと、アウトリーチ支援、伴走型支援等、少し理解できました。
- ・ 複合化する社会問題に対し、総合的に相談できる部署ができたことで共生社会の実現につながると思う
- ・ ひきこもり支援センターなど、相談できる機関があることを知れてよかった。
ひきこもりやゴミ屋敷は、本人が自覚していないことも多く、支援するのに悩むことがある。包括支援センターと連携して支援していきたい。
- ・ 福島市の取り組みについて知ることができました。担当しているご家庭でもそういった問題にぶつかることも出てくるので大変参考になりました。